

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「毎日が敬老の日でありこどもの日である」を理念に、「利用者の人格を尊重し、地域の人々と共生し、楽しく暮らせるよう努力し、地域の貴重な財産となるよう健全な運営を行う。」とし、玄関及びフロアに掲示している。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回管理者、全職員が参加して事務所会議を行い、理念・運営方針を基本にしたサービスの提供・情報交換・研修会・カンファレンスを実施している。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	「理念」「運営方針」は、ご家族様及び、地域のボランティアの皆様に理解して頂くよう玄関・フロアに掲示している。又、入所申し込み希望者の案内パンフにも明記している。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自然環境に恵まれた立地条件にあり、近隣にお住まいの皆様との散歩コースになっていて、職員はじめ入居者の皆様と声をかけ合っている。犬の散歩が多く犬とのふれあい交流もあります。又、施設というより一般の住宅の様なレイアウトを取り入れ、玄関先は低い生垣を配しプランターに花を植えて家庭的な雰囲気を作っている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年、ともしび苑主催の「夏祭り」は、地域との交流の場となっており、地域の老若男女の多くの皆様に参加して下さっている。又、地域の子供会の奥様方で構成する「人形劇」を月1回見せていただき、一緒に参加して頂く子供さんとの交流を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のボランティアの方から楽器の演奏、人形劇、縫い物クラブ等々沢山の支援を頂いている。一方自治会から、高齢者の多い地域であり災害時の緊急避難場所の協力や避難協力等の要請があり地域に貢献できればとお受けしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	平成16年度以降毎年実施されている外部評価は、全ての関係者にとって一年間の真摯な反省と、新しい年度に向かっての大いなる目標になっている。自己評価は毎回職員の協力のもと作成し、入居者様中心のサービスの質の向上を目指す有意義な取り組みになっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表お二人から他施設の情報や当ホームの課題をお聞きし改善に取り組んでいる。入居者様ご家族様のご意見への対応等会議毎に取り組んでいる。散歩・縫い物クラブ等のボランティアさんのご意見も会議の中に取り入れ実りある会議を心がけている。2ヶ月に1回実施。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型介護サービスとして、様々な案件に対し市役所に出向いたり電話相談させて頂いたり連携を取っている。市主催の研修会・事業所連絡会には必ず参加し、事務所会議の際職員全員に報告・連絡を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会「虐待防止について」で、大阪府の取り組み実態の勉強会を行った。権利擁護に関しては、地域(地域住民・民生委員・自治会等)、医療機関、専門機関とのネットワークを理解し活用出来る様外部・内部研修会を行う。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止について」大阪府発行のハンドブックを教材に内部研修会を実施。高齢者虐待防止法を中心に「虐待の意味」をまず理解し、入居者様との接し方について学んだ。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日勤者、夜勤者を固定化し、日勤者は入居者様の担当を決めている。職員の移動や離職は特別な理由がない限りなくす様努力し、馴染みの職員が支援を行い、交代する場合は、入居者様お一人お一人の状況に合わせた人選と引継ぎを行うようにしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業運営上必要な資格取得は、運営者、管理者が計画を立て該当者に研修の受講を勧めている。職員の外部研修会は職員の希望を聞き積極的に推進している。内部研修会は事務所会議時に実施する事を目標にしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高槻市が毎月開催する事業者連絡会・研修会に参加し、交流の機会になっている。又、グループホーム交流研修を計画し、他のホームのケアを学び、自らのケアの質の向上に取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	翌月の勤務表作成に先立ち、全職員の休暇希望日を申告してもらい希望に沿うよう勤務シフトを工夫している。有給については、個人の申告どおり取得できている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日常の職務の中で改善提案や様々な希望等聞いている。又、毎月の事務所会議で、自由に発言できるように取り組んでいる。勤務状況は平等に正確に行い評価している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居者様の担当者を決め、入居者様とかかわる時間を多く持てるよう支援している。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入所申し込み時、利用契約時、面会時にご家族様と話し合う機会を作り、不安・希望等を聞き対応している。年に2回開催している家族会で、個々に話し合える懇談会を行っている。	
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	入居者家族様からの相談には迅速に対応することになっている。内容によっては、個人記録の参照、Dr. との相談（医療情報含む）、他施設の情報提供等本人とご家族様に今必要とする支援を見極めて対応している。	
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入所面接時や利用契約時に提出される、生活暦・好きな物・好きな事・家族状況を把握し、今までご本人が使用していた物の持ち込みを可能にし、今までの生活との違和感を少なくするようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者様が出来ること、台所の手伝い・洗濯物たたみ・掃除等生活に密着した事を職員と一緒に行って頂き、ゲーム・歌等遊びの中でも楽しみの共有を目指している。1対1、2対1の組み合わせの学習療法を生かし20分位の対話の中で入居者様に色々な事を教えて頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態の変化を正確に把握しご家族にお伝えし、一番良い状態、環境で過せるよう連携を取るよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	良い関係のご家族様が多いと感謝している。面会が多いご家族様で、週3～4回平均で月1～2回されており、面会が困難な時は、電話にて連絡を取り合いご家族様の意見を尊重し支援を行なっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも可能であり、ご家族様の協力を頂き、遠方のご親戚の方等の面会もある。毎年近況の写真入の年賀状を作成しご本人の挨拶、署名入りで出し、元気で生活されている様子を親戚・友人にお知らせしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	普段は、居間に9名が座ることが出来る堀コタツがあり、ＴＶをを見ながら入居者様同士が話しやすい環境を提供している。皆さんが自由にすごされることを最優先にし、もしトラブルや不穏になった場合は、お一人おひとりの話をじっくりお聞きし、ご家族様の協力も得ながら解決の支援をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設の特養入所の場合は職員が時々面会に行っている。ご家族様も時折顔を見せて頂き、現在の状況を知らせて頂いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別対応を心がけている。入居者様の気持ちを尊重し粘り強く意向を理解するよう時間をかけて傾聴している。月に20回行っている学習療法の時間は皆さんが様々な話をして頂けるので本人本位の支援に有効活用が出来ている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用申し込み時に提出されている、生活暦・好きな物・家族状況を把握している。職員がこれらの情報を共有し日々のサービス計画の確認を行っている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタル測定の結果やお一人お一人の顔色・体調を観察し、変化が見られた場合看護師に相談し指示を受ける。特に、外泊・外出等一日のリズムが変わった時の心身状態に注意している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月行っているケアカンファレンスで入居者様お一人お一人のケアについて、職員及び、家族様の声も反映した意見交換をし情報の共有を図っている。必要に応じ、医師・看護師に相談し現状に適した介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に一度見直しを行っている。入居者様の心身上の変化がある時は、現状に即した介護計画を作成し、必要に応じ医師に相談し、ご家族にも説明をし同意を頂いてている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、課題は生活記録簿に記載し職員間の情報共有化に務めている。気づきや見直しの必要があれば、計画作成担当者を中心に職員で話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の診療所で、体調不良時診察、服薬の対応を行っている。特養、デイサービスのボランティアの催しに参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる支援として、散歩・大正琴・三味線・囲碁・人形劇・ハーモニカ・横笛・縫い物クラブ等を行っている。緊急時の対応は、警察・消防・市バス・タクシー会社等に協力依頼をしている。介護相談員の訪問を月1回受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や要望に応え問題解決の目的の為に、物的・人的な社会資源を選択・利用する様支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、要支援・権利擁護を必要とする入居者様はいないが、地域包括支援センターとは定期的に情報交換の機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望がある場合、施設対応で通院受診或いは往診をしてもらっている。併設の診療所からは月に1度往診を行っている。緊急時は協力医療機関として、「みどりヶ丘病院」と提携し支援体制をとっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関である木村D r . が、定期的に診療所に来られており、受診が必要な入居者様は診療を受け相談及び情報を頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ともしび苑診療所の看護師と常に連携がとれるようにしている。又、年2回の健康診断も行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された病院と連絡を取り合い、環境が変わることによる認知症の進行を考慮し、早期退院に向け連携を密にとっている。入院中はご家族様とも連携し、職員が病院に出向き、食事介助等の支援・協力を行う体制は出来ている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者様の心身の変化には常に注意を払い、管理者・職員・家族様が情報の共有を図り相談をしている。診療所やかかりつけ医の意見を参考にした上で方針を決定している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化は進んでいるが、職員の対応により安心して穏やかに過してもらっている。しかし、現状の人員体制では重度化の対応に限界がある。他施設との交流研修や外部研修会等に参加し重度化対応(医療対応も踏まえ)の今後を見据えて検討していく。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	他所のケアマネージャー、ケースワーカーと面談し情報交換をおこない、家族様には十分な説明と協力をお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員の言葉かけについて指導を徹底している。職員も、日々の支援の中で、一言のために入居者様が不穏になる事は十分認識している。職員全員が半期ごとの身近な目標を掲げ、その結果について反省会を実施している。		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	意思疎通の困難な場合もあるが、説明し納得してもらいながら支援している。”全てを受け入れる”を合言葉に入居者様本位の支援を行っている。		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	入居者様の生活ペースに合わせた介護を心がけ、ご本人の意思を尊重している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	日々の服装は本人に選んでいただき、出来ないときは声かけし援助している。散髪は月に1回理容師にホームに来て頂いている。理容師とも顔なじみになり会話をしながらの理容時間となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に意見や好みを聞いている。準備・片付けは出来るだけ各自運んでいただき、食器洗いは意見を聞きながら又、体調を見た上で手伝って頂いている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは好物を聞き、原則月に1回近くのスーパーへ買い物に行っている。たばこは本人の希望時にお渡ししている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表により、声かけ誘導している。1月に内部研修会で、特養職員のオムツフィッターの講習を全員で受講した。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴日を決めているが、入浴拒否される時はタイミングをはかり誘導している。入居者様本位の援助を心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様お一人お一人の生活リズム・パターンがあるため、ほぼご本人本位の援助をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物クラブへ参加して手芸をしたり、歌や音楽が好きな方は毎週行われるボランティアによる行事に参加、台所仕事で得意で好きな方は職員と一緒に、それぞれ楽しんで頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は小銭を持っていて職員は周知している。スーパーへの買い物、タバコの自動販売機での購入等、必要な時にお金を渡し各自精算している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候を見ながら、週3～5回ボランティアの協力も得て散歩に出かけている。花の綺麗な季節には自由に庭に出て楽しんで頂いたり、ベランダでお茶会をしたりと生活に変化を取り入れる様取り組んでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見、鯉のぼり観賞、外食会、地域行事への参加等四季折々に外出機会を作り、家族様の皆さんの協力を得ながら行っている。個別には家族と出かけるよう支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話でご家族様に連絡したり、事務所の電話を利用して頂いている入居者様がられる。年賀状は送り先を選んで頂き、ご家族様に確認を御願ひしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	「明るくお迎え」を心がけている。家族・知人の面会が増えている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束を行わないことを運営規程、重要事項説明書、利用契約書に明記している。職員は周知している。玄関には「身体不拘束」宣言を掲示している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊・帰宅願望の強い入居者様がおられ、見守りを徹底している。日中は玄関の鍵はかけず、入り口ドアの開閉確認を確実に行うことで対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認は職員同士の声かけで確認しあい、外出願望の強い入居者様は、時間を決め見守り確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は鍵のかかる所に保管し、使用時には職員が付き添い見守りをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月「事故・感染症予防対策会議」が行われ、事故に対する再発防止を協議し徹底している。事務所会議でも連絡事項の中で職員に徹底し、ケアカンファレンスでも確認しあっている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡ネット、緊急避難マニュアル、緊急連絡網、緊急時の対応等を作成し、ホーム内の要所に掲示している。救命講習は毎年実施しており全員受講している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火、避難訓練は3ヶ月毎に入居者様・職員が参加し実施している。非常食は特養の倉庫に常備している。地域の避難場所も確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族様が面会訪問された時、入居者様の現状を説明し、リスクについての理解を頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間の引継ぎを正確に確実にを行い、体調の変化や異常があれば迅速に併設の診療所又は、協力医療機関に連絡、指示を受ける。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様お一人お一人の薬の説明書は、職員がいつでも見える所に置き、確認し支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表により確認している。牛乳や野菜を多くした献立を取り入れている。又、生活の中に運動を取り入れている。場合によっては薬の服用を行う。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの援助を毎食後行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士に見てもらっている。量についてはお一人お一人調整している。水分量はチェック表で確認し支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策マニュアルがあり、職員は周知している。年に2回の研修があり、内看護師が行う研修は全員参加となっている。入居者様・職員の消毒とうがいの徹底、必要と判断される時は、外来者にマスク着用を御願いし協力を得ている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の清潔を保つ上で、滅菌庫を使用している。食中毒予防の研修は毎年行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関が家庭的な雰囲気になるように努めている。鉢植えを季節ごとに入れ替え、いつも季節の花が咲いているように担当職員が知恵をしぼっている。又、水やり、草引き等の世話は、入居者様の協力を頂いている。散歩で知り合った近隣の人が、犬好きの入居者様に会いに気軽に立ち寄って下さる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の座敷には9名が座れる堀こたつがあり、床の間に季節の花を飾って家庭にいるような雰囲気作りをしている。職員の会話のトーンには注意している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の間の掘りごたつでTVを見たり、ベランダのいす席での日光浴、廊下のベンチで世間話、たまには一階の外庭で皆さん揃ってティータイム等工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時になじみの家具や写真等自分の家として、 安心してくつろげる様支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう 換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている	朝の掃除時や昼食時に居室の空気の入替えを 行っている。温度・湿度に注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	身体機能低下を予防する為、極力階段を使用する よう声かけをしている。歩行困難な入居者の為 にエレベーターを設置している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように 工夫している	家事援助時、職員は入居者様お一人お一人の理解 力を把握している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物の外回りには季節の花を植えたり、ベランダ には個人の鉢植えを置き、園芸療法に役立ってい る。外庭で昼食を食べたり、おやつをいただい たりし、楽しんで頂いている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームともしびは、自然に囲まれた緑いっぱいの環境のもと、入居者様が生活と憩いの場としてゆったりと安心した日々を過ごされています。又、地域の様々なボランティアの方々が、心こもる催しを行って頂いております。平成19年2月より取り組んでいます”学習療法”は、入居者様・ご家族様に変えて頂いております。この学習療法は、週5回実施しており20分/1回程度の時間ですがこの時間はまさに入居者様中心で”職員が自分と向き合ってくれている”との安心感から、コミュニケーションが実にスムーズに行えます。間もなく2年が経過しますが、自己主張の確立、生活の自立、協調性の芽生え等予想以上の効果があり、明るい表情が富に見られるようになりました。ご家族の皆様もこの変化に気づかれ大変協力的です。導入以降、介護度の改善がお二人の入居者様にありました(平成19年8月に介護度4→3、平成20年9月に介護度3→2)。私達介護者にとってとても励みになっています。入居者様の”全てをうけいれる”をモットーに、運営理念である『毎日が敬老の日であり、こどもの日である』ことを願い福祉社会の構築に貢献して行きます。